

●イネ科雑草から広葉雑草までワイドに使える土壌処理除草剤です。

ヨイドン

(DCMU 水和剤)

有効成分：DCMU (PRTR 法第 1 種-169 号) [3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素]…80.0% 鉱物質微粉等…20.0%

除草剤

農林水産省登録第 11338 号
 性状：類白色水和性粉末 45
 μm 以下
 毒性：普通物*
 有効年限：5 年
 包装：15kg×1
 *は毒劇物に該当しないものを指し
 という通称

特長

●イネ科雑草から広葉雑草までワイドに使える土壌処理剤です

適用雑草と使用方法

平成 22 年 1 月現在の登録内容

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	DCMU を含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
陸稲	—	畑地一年生雑草	は種直後	60～100g / 10a	100ℓ / 10a	1 回	全面 土壌散布	1 回
だいち あずき			は種直後～ 発芽前	70～100g / 10a				
らっかせい			は種直後	60～100g / 10a				
ばれいしょ			植付後～萌 芽前	70～100g / 10a				
らっきょう			植付覆土後	60～100g / 10a				
さとうきび			植付覆土後 又は培土後	100～150g / 10a	70～100ℓ / 10a			
麦類(冬作)		ヤエムグラ 畑地一年生 雑草	ヤエムグラ 発芽揃期	60～70g / 10a	100ℓ / 10a			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	DCMUを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
りんご なしも かき かんきつ ぶどう おうとう うめ	—	畑地一年生雑草	雑草発生前	100～200g /10a	100ℓ/10a	1回	全面 土壌散布	1回
			雑草生育期	200～ 400g/10a			ノニオン系 展着剤を加 えて雑草茎 葉散布	
			子葉展開期	60～80g/ 10a			全面 土壌散布	
			桑	100～200g /10a			全面 土壌散布	
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等	一年生雑草	雑草 発生前	60～200g /10a	100ℓ/10a	3回以内	植栽地を除 く樹木等の 周辺地に全 面土壌散布	3回以内
			雑草生育期	200～ 400g/10a			植栽地を除 く樹木等の 周辺地にノ ニオン系展 着剤を加え て雑草茎葉 散布	

効果・薬害等の注意事項

- 覆土はできるだけ土を細かく砕いて、必ず3～4cmの厚さに均一に行う。
- うね間又は株間に散布する場合は全面積の割合に応じて薬量を減らす。
- 砂質で水はけのよい畑や雨の多い時期の散布は注意する。
- 薬液はときどきかきまぜながら、むらのないように散布する。
- 近くに根の浅い作物がある場合は、散布液が流れていかないように注意する。
- 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意する。
 - 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。
 - 散布薬液の飛散、あるいは本剤流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分に注意して散布する。
 - 水源池、養魚池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意する。
 - 散布にあたっては、小児や散布に関係のない者が作業現場に近づかないように配慮するとともに居住者、通行人、家畜などに被害を及ぼさないよう注意を払う。
 - 散布薬液の飛散によって、自動車やカートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意する。

■■■ 安全使用上の注意 ■■■

- 使用后、容器や散布器具は必ず十分水で洗う。
- 散布の際はマスク、手袋などをして散布液を吸い込んだり、多量に浴びたりしないように注意し、作業後は顔、手足など皮膚の露出部を石けんでよく洗い、うがいをする。
- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。散布に使用した器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響のないよう適切に処理する。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。
- 漏出時は、保護具を着用し、掃き取り回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

魚毒性…一時に広範囲に使用する場合には十分に注意する。

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

- 食べられません。
- 有効年月内に使用する。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしない。